

その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.106

a taste of Yassy

田中 康夫



たなかやすお ●'56年生まれ。新党日本代表、作家。「00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、「09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、「1期務める。[公式ブログ] http://tanakayasuo.net/



創業当初、従業員との懇談会では必ず饅頭を頼んだ、と現在は全国展開する運送業の女性経営者が述懐したのを想起出します。

ちょっとぴり豪勢。カツ丼や天丼との違いです。それでいて握り鮨と異なり、満腹感も味わえる。些か緊張の面持ちで座った現場の運転手は、社長と一緒に饅頭を頼まる中で胸懃を吐露します。改善すべき業務上の事柄を。

株価上昇の験を抱ぐ祈飯なのか、株価急騰を喜ぶ祝杯ならぬ祝飯のか、東京証券取引所の周辺に饅頭

屋が目立つのも、ある種の「縁起物」だからでしょう。「晴れの気分」を味わう印象を与えます。

若かりし時分に好んで出掛けたのは、南千住の尾花でした。明治初期まで小塚原刑場が存在し、安政の大獄で処刑された吉田松陰や橋本左内も眠る回向院が、常磐線の線路を挟んで向かい側に位置する一廓。足立区鹿浜のスタミナ苑と同じく予約不可の軒先で順番を待つ、うざく、う巻、白焼、蒲焼の順に愉しむのが常でした。筏蒲焼と銘打った大串も用意される邊

の邊に構える山の茶屋。何れも歴を感じさせる庭園を眺め、饅頭を個室で味わう料理店です。

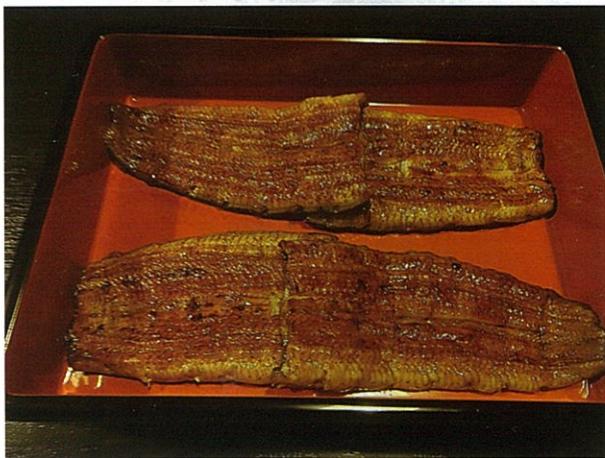
前者は平凡出版『マガジンハウスマガジン』の今は亡き清水達夫氏に、ス創設者の今は亡き佐高信氏との結婚をしています。後者は佐高信氏との岩波書店の対談で訪ねました。終了後、編集部が用意した黒塗りのハイヤーに、颯爽と乗り込む佐高氏を僕は見送り、隣接する時間制駐車場に停めていた車を運転して戻りました。岩波書店・佐高信氏・山の茶屋の三題は、社会主義国の特権階級ノーメンクラトウーラの喜劇を想起させます。

「小説にこそ本当の姿ある」と題する『神戸新聞』の長尺インタビューで11年前、「戦後から高度成長期のようないびつーーが出てきにくい時代です」との質問に「そうでしょうか。高杉良さんが『青年社長』で描いたワタミフードサービスのような会社があります」と太鼓判を捺した佐高氏の追憶録を掲載したら、「週刊金曜日」も洛陽の紙価を高めるでしょうに。

赤坂の「重箱」へ久方振りに妻のW娘と足を運びました。凡百の饅頭亭と異なり、きも焼き、鯉こく、白焼き、蒲焼きの正道を歩む巷の喧噪からも隔離された時空。大井川の伏流水で育った養殖饅頭は、程良く纖細な脂の旨味です。

大井川の伏流水で育った饅頭の程よく纖細な脂の旨味

今週の逸品



夜の献立 1万7850円 蒲焼き

「天然」を「売り」に外連味が横溢する東京タワーから至近の露屋とは対照。剥身を加えて懷石を装う饅頭亭とも異なる。突き出しに続いて、きも焼きは白焼き・蒲焼き2本の肝の捻り合わせ。餡こくは薄味噌汁仕立ての餡の煮込み。白焼き・蒲焼き、食事と続く。少しあ餅米を加えた白飯の粘り気が、心持ちあっさり目な蒲焼きと絶妙な至福の口内に齧る。2人から受付、何れも個室。築山を眺めて掘り座卓。費用対効果は高い。

[重箱] 港区赤坂2-17-61 ☎ 03-3583-1319
【営業時間】11:30~14:30、17:30~21:30 日祝定休 個室

illustration by Hajime Anzai

の丘に構える山の茶屋。何れも歴を感じさせる庭園を眺め、饅頭を個室で味わう料理店です。前者は平凡出版『マガジンハウスマガジン』の今は亡き清水達夫氏に、ス創設者の今は亡き佐高信氏との結婚をしています。後者は佐高信氏との岩波書店の対談で訪ねました。終了後、編集部が用意した黒塗りのハイヤーに、颯爽と乗り込む佐高氏を僕は見送り、隣接する時間制駐車場に停めていた車を運転して戻りました。岩波書店・佐高信氏・山の茶屋の三題は、社会主義国の特権階級ノーメンクラトウーラの喜劇を想起させます。

「小説にこそ本当の姿ある」と題する『神戸新聞』の長尺インタビューで11年前、「戦後から高度成長期のようないびつーーが出てきにくい時代です」との質問に「そうでしょうか。高杉良さんが『青年社長』で描いたワタミフードサービスのような会社があります」と太鼓判を捺した佐高氏の追憶録を掲載したら、「週刊金曜日」も洛陽の紙価を高めるでしょうに。

赤坂の「重箱」へ久方振りに妻のW娘と足を運びました。凡百の饅頭亭と異なり、きも焼き、鯉こく、白焼き、蒲焼きの正道を歩む巷の喧噪からも隔離された時空。大井川の伏流水で育った養殖饅頭は、程良く纖細な脂の旨味です。